



大地震は百年おきぐらいに、くり返し起こるのは本当なの

太平洋側で、くり返し起こっている

日本で、いばん古い地震の記録は、1500年以上前のものです。昔から起こっている地震の記録を、調べていくと、ある地域では、何十年か何百年ごとに、大きな地震が、くり返し起こっていることが、わかります。

地震が、くり返し起こっているのは、太平洋側で、日本海側の地震については、じゅうぶんな記録は、残っていません。

南海トラフや相模トラフなどで、起こっている

静岡県沖から、紀伊半島沖にかけての、南海トラフとよばれる海底では、100年から150年ごとに、マグニチュード(地震のエネルギーの大きさを表す)8ぐらいの、巨大地震が起こっています。

関東大地震は、1923年9月1日に、相模湾から東京湾にのびる相模トラフ、とよばれる海底で起こりました。この地域でも、約160年ごとに、マグニチュード7~8の、大きな地震が起こっています。

東北地方の三陸沖でも、約40年から150年ごとに、また、北海道の東沖でも約90年ごとに、マグニチュード7~8の、大きな地震が起こっています。(監修・国司 真)

